

業務名称：2026-2028年度意識定点調査

(公告日：2026年1月23日 調達管理番号：26a00023) について、入札説明書に関する意見と回答は以下のとおりです。

独立行政法人国際協力機構

通番	該当頁	項目	意見	回答
1	P.5	4. 業務の内容 (1) 意識定点調査の概要 ①対象者	経年変化分析(時系列分析)の精度を高めるために伺います。 対象となる職員様の部署異動(ローテーション)の頻度や規模感をご教示いただけますでしょうか。(例:2~3年ですべての職員が異動する、等)	職種によって異なりますが、およそ以下のとおりです。 総合職:2~3年程度で異動 特定職:5年程度で異動する場合もある その他(有期職制や現地職員等):異動は想定されない
2	P.6	4. 業務の内容 (1) 意識定点調査の概要 ④調査項目	設問項目の見直しにあたり、過年度との比較・継続性を担保するため、現在使用されている「17の設問グループ」および「約80項目の設問一覧」をご教示いただくことは可能でしょうか。 または、入札説明書等での開示は予定されていますでしょうか。	設問グループおよび設問一覧については一般公開しておらず、入札説明書での開示も予定しておりません。ご契約後のキックオフミーティング等で共有する予定です。
3	P.6	4. 業務の内容 (1) 意識定点調査の概要 ④調査項目	今回、設問設計のベースとして「仕事の要求度-資源モデル(JD-Rモデル)」に着目された背景についてご教示ください。 特に、近年の組織課題として、職員様のワーク・エンゲイジメント向上やストレス要因の特定など、どのような点に重点を置いて分析したいとお考えでしょうか。	JICAのワーク・エンゲイジメントの要因と結果を経年でフォローすることで、具体的にどのような点に改善の余地があるのか/ないのか把握したいと考えております。
4	P.7	4. 業務の内容 (2) 業務の内容 ⑤意識調査回答の集計・分析	調査結果の活用状況について伺います。 現状、集計結果は各現場(拠点・部署)に対してどのような形式でフィードバックされていますでしょうか。 また、現状のフィードバック方法において、現場での活用や改善アクションへの接続に関して、発注者様が感じておられる課題感があればご教示ください。	回答者数、各設問のスコア、各設問のスコアの全体との差異等をまとめたレポートを共有しています。現状、各部門へはデータ共有だけであるため、各部門での結果の活用方法に差があると感じています。
5	P.8	4. 業務の内容 (4) 再委託の可否	本項に「②意識調査回答サイトの構築におけるサーバー利用」については再委託可とありますが、セキュリティ要件を満たすことを前提に、「回答サイトのプログラム実装・構築業務、および保守運用業務」についても、本項の再委託可能な範囲に含まれるという理解でよろしいでしょうか。(システム構築において、サーバー利用と開発実装は一体不可分であるため確認させていただきます。)	現時点ではサーバー利用のみを再委託可と考えておりますが、セキュリティ要件を満たすことが可能であれば、「回答サイトのプログラム実装・構築業務、および保守運用業務」についても再委託の範囲に含めることを検討します。最終的には、入札説明書をご確認ください。
6		分析単位の妥当性:属性区分(職種、資格、所属など)、統計的に優位な差を出すための最小集計単位や、プライバシーに配慮した属性の組み合わせについて	■年齢区分と集計単位の細分化について 現状の仕様書にある「30~39歳」という10歳刻みの区分は、範囲が広すぎると考えます。 特に25-35歳の30代前後は、実務経験を積み市場価値が高まることで転局・転職が容易になる時期です。 若手と中堅で異なる動向を正確に捉えるためにも5歳刻み(29歳以下、30-34歳、35-39歳...)での集計を推奨します。 ■小規模部署の秘匿処理 課単位までは、現場での改善活動(フィードバック)の起点となるよう細分化すべきですが、個人特定(プライバシー)を防ぐため、一定人数(例:5名以下)の部署は上位組織に統合して出力する等の処理が適切と考えます。	ご意見ありがとうございます。5歳刻みでの集計も検討します。
7		海外拠点の現地職員に対して、日本語・英語以外の言語対応の必要性や、文化的背景を踏まえた設問の表現(ローカライズ)の必要性について	■標準言語での運用推奨 貴機構は国際協力を主たる業務としており、多くの職員が、業務遂行上で一定水準以上の英語力(または日本語力)を有していると想定いたします。 製造業の工場等とは異なり、言語の壁による回答困難なケースは限定的であると考えられるため、費用対効果の観点から、基本言語は「日本語・英語」の2言語で十分であると考えます。	ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。
8		共通ID/パスワードによる運用の利便性と、リスクのバランスについて(共通ID/パスワードでの集計とすべきか、個別ID/パスワードを付与すべきか)	■データ精度と利便性の兼ね合いについて 共通IDは運用の簡便さという利点がある一方で、誰が回答したかが不明確になることによる、なりすましや重複回答のリスクが生じやすく、データの正確性が損なわれる懸念があります。 一方、個別IDは配布や管理の手間がかかるものの、未回答者への督促が行いやすく、回答者の属性を正確に把握できるため、分析精度を重視する場合には個別IDでの運用が望ましいと考えられます。	ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。
9		回答を促すためのプッシュ通知、回答画面での進捗バー表示等、回答者の負担を軽減するためのUIデザインについて	■UIよりも「回答の動機付け」を重視 進捗バー等のUI改善は離脱防止に一定の効果がありますが、回答率向上においては、システムの見た目以上に、組織内での「調査目的の周知」や「回答への動機付け」が重要であると考えます。 また、PDFでアンケートの全体像を事前に共有することで、「何を、どこまで対応すればよいのか」が直感的に理解でき、取り組むべき内容が明確になるため、回答への心理的ハードルを下げる効果が期待できます。 一方で、「何%遂行中か」といった進捗状況を過度に可視化するUIは、状況によってはプレッシャーやストレスにつながる可能性があります。 そのため、過度な機能実装(プッシュ通知等)によるコスト増を図るよりも、標準的でストレスのないUIデザインを採用し、周知活動にリソースを割くことを推奨します。	ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。

通番	該当頁	項目	意見	回答
10		PDF や紙の報告書だけでなく、各拠点長がドリルダウン分析ができる「動的なレポートツール（Power BI等）」の導入可能性について	<p>■費用対効果および現場定着の観点から非推奨</p> <p>本件において、Power BI等の専用ツール導入は費用対効果の観点から推奨いたしません。</p> <p>動的なツールは、閲覧権限の細かい設定や画面構築などの導入・構築工数を要する上、現場管理職への操作研修等の手厚い人的サポートがない限り、活用・定着が進まないリスクが高いと考えます。</p> <p>現場での改善アクションにつなげるためには、能動的な操作が必要なツールよりも、PDF報告書等において、切り口別・階層別の分析結果を網羅的かつ分かりやすく提示する運用のほうが、情報の到達率が高く、現時点では最も現実的かつ効果的であると考えます。</p>	ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。
11		ベンチマークについて、適切な比較対象（国際機関、NGO、他国のドナー機関等）の提言	<p>■経年比較の最優先と適切な比較対象</p> <p>最も重視すべきは「貴機構内での過去（時系列）との比較」です。</p> <p>その上で外部比較においては、『利益追求』ではなく『公共への奉仕』を目的とする組織特性が類似している『一般公務員』や広く公共一般のデータを用いることで、客観的な現在の状態を把握することが適切と考えます。</p>	ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。
12	P.9	6. 成果物・業務提出物等	成果物4「生データ（回答者に採番する等し、回答者が特定されないデータに加工したもの）」につき、当該データの公開範囲は決定していますか。（例：人事部内、管理職以上）	人事部内の一部管理職と、職務上必須な一部総合職職員のみ限定します。
13				